

カブトムシ

伊達市立月館幼稚園(福島県伊達市)

4歳の時にもカブトムシを飼育している子どもたちが、5歳児年長クラスで再びカブトムシの幼虫の飼育を始めた。

カブトムシを幼虫から育て、成虫になる様子を観察し、成長の過程を知ってほしい。

カブトムシの成長を楽しみにしたり、不思議に思ったことを調べたりすることで、自分たちで育てていくという意識を高めさせていきたい。

カブトムシが幼虫から成虫になり、成虫が卵を産んで幼虫が育っていく様子を見て命のつながりを知ってほしい。

教師の願い

< 4月15日 カブトムシの幼虫をクラスごとに容器に入れ、育て始める >
カブトムシが幼虫の間はあまり見えないので、霧吹きをして土を湿らせるかかわりをする子は少なかった。

身近な所に幼虫を置く。
常に幼児がカブトムシの様子を観察できるようになる。

< 5～6月 霧吹きをして土を湿らせ、観察を続ける >
自分たちで図鑑を調べたり、本を見たりする機会が増える。

< 考察 >

幼児が身近にかかわることができる環境を大切にすることができた。
昨年度の経験があることで、成長を図鑑で調べたり、霧を吹いたりして静かに成虫になるのをまつことができた。

< 7月7日 カブトムシが成虫になる >
カブトムシが5匹、成虫になっているのを発見する。

「うわぁ！すごい。カブトムシだ」
「こっちがオス。オスは4ひきだね」
「カブトムシはね、スイカ食べないんだよ。リンゴとかキュウリとかたべるんだよ。僕の家にいるからわかるもん」
「メスは、土の中にもぐっていくんだね。どうしてもぐっていくのかな？」
「卵を産むんじゃないのかな？あ、幼虫には、土かけておかなくちゃだね」
1日中、カブトムシとかかわって遊ぶ。



毎朝、成虫が何匹になっているのかと、楽しみに登園してくる姿がある。
これから、どんな食べ物を食べて生きていくのかを調べる姿がある。

< 考察 >

幼虫から成虫に変化したカブトムシを初めて発見した時は、幼児とともに教師も感動を味わうことができた。
幼虫から育て、成長の過程を知ることができた、食べ物を調べる意欲的な姿がみられるようになった。

< 7～8月 夏休み中、卵が生まれる >
夏休み明け、カブトムシの様子を観察していた子どもたちが、幼虫を発見し、驚く。幼虫から成虫へ、さらに成虫が卵を産み、その卵から幼虫が育つという命のつながりを知る。

< 考察 >

幼虫から成虫へ、さらに成虫が卵を産み、その卵から幼虫が育つ、という一連の流れを理解し、カブトムシの一生や命のつながりについても知ることができた。命の大切さは、このような実体験の中で、幼児が自然に感じ取っていくものだと感じた。
カブトムシの一生や生命のつながりについて知るのに適した活動であった。

みどころ

様々な飼育物が棚に並んでいる園が多い時期です。この園では、カブトムシにかかわる子どもたちの変容に着目して、子どもたちが、虫の成長に関心を持って飼育や観察をしたり、不思議や疑問など調べる意欲的な取り組みをしたりする「科学する心」の育ちにつながる姿を見取ることができました。そして、環境設定の大切さ 成長を見守り成虫になった感動体験の大切さ 虫の一生や生命のつながりについて知ることのできる適切な教材 という指導のポイントを捉えました。